



発行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県 牧之原市
坂部 2151 番地 2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/

機関誌代は無料です。

「インテリジェント」

(一)

福祉新聞の二月号に、元毎日新聞論説委員の宮武剛氏が、大学入試共通テスト(本年一月実施)に初めて出題された「情報I」の設問に挑み、「二問しか正解できなかった」と述懐しています。宮武氏が正解したのはこんな問題ですが、皆様もトライしてみてください。

〔問題〕次の「文章」中の空欄()に入れるのに最も適当なものを、0～4から選べ。

「インターネットで情報をやり取りする際、発信人が本人であることを確認するためにデジタル署名が利用できる。また、デジタル署名を用いると、その情報が()を確かめることができる。」

- 0 複製されていないか
- 1 暗号化されていないか

- 2 改ざんされていないか
- 3 どのような経路で届いたか
- 4 盗聴されていないか

宮武氏は勘で当てたようですが、私は、「インターネットでの情報のやり取り」、「デジタル署名」といった言葉を手掛かりにして推測した結果、2にたどり着き、正解だとわかりました。

その他の質問に関して、宮武氏は「手も足も出なかった。何しろ、



もスラスタ? 使えるよう努力すべきかなあとも思っています。

(二)

「IPアドレス」「HTML」「7セグメントLED」「チェックデジット」などなど、用語自体が分からない。「情報」業界で生きてきたつもりだが、完全に落ちこぼれた」と惨敗を認めています。

私も用語の幾つかは目にしたことがありましたが、正確に説明できるものは皆無で、惨敗でした。今のところ私としては、パソコンに向き合っただけ以上視力低下したくないし、習得の必要に迫られてもいないので、「落ちこぼれてOK」なのですが、周囲の状況はIT情報の発信・拡散・交流がますます進むのであり、福祉分野にもその影響が及んでいるので、やはり、情報社会に仲間入りし用語もスラスタ? 使えるよう努力すべきかなあとも思っています。

当法人の「二〇二五年度事業計画」の冒頭に私は次のようなことを書き、福祉分野にもIT技術の活用が本格化しつつある背景などを記したので、ご紹介します。(内容の順番など、やや修正)

押し寄せる「超高齢社会」の波、…その高波の一つとして警戒されてきた「2025年」を迎えた。戦後のベビーブーマーたち全員が七五歳以上になる年で、それがもたらす深刻な問題に対応するため、すでに包括ケアシステムが構築されている。

次の高波は「2040年」といわれ、生産年齢人口が減少する中、高齢者人口はピークに達する見込みであり、社会保障制度を維持する対策がすでに始まっている。例えば、医療・介護連携システムや、情報基盤整備事業といった施策で、電子データのやり取りを通して、利用者情報を、行政と医療機関、福祉施設等がすばやく共有し、迅速で無駄のない対応をすることを目的としている。「2040年」に向けて始まったこのような生産性向上のためのICT化を、私たち福祉関係者も本格的に進めていくことが求められている。

(三)

人手不足も厳しくなる中、私たちは否応なくICT化(ネットワーク通信を利用した情報や知識の共有)を進めていかねばなりません。忘れてならないのは、これは手段であって、目的ではないということです。

当法人は自分たちのビジョンとして、「小さき人が大切にされ、誰もが幸せになる共生社会の形成」を掲げており、「ICT化による合理化・効率化」を推進する一方、「人格の尊重」や「寄り添う」といった基本姿勢を忘れてはならないと言えます。

合理化・効率化によって生みだされるゆとりを、ご利用者の満足や喜びのため(例えば相手の話を耳を傾けたり、一緒に散歩するなど)に少しでも費やすことができれば、幸いです。

施設での日々の営みは、ご利用者の障害の程度や要介護状態等によってやや異なります(例えば、排尿・排泄介助、入浴介助、食事介助、散歩や音楽・絵画活動の支援、作業能力アップのための支援など)そのような働きをしながら、「今日もあな

たと過ぎてせてうれしい」「今日も生きていてくれてありがとう」という優しいメッセージを、無言の眼差しや動作を通して伝えることができれば、最高の支援と言えるでしょう。

神さまが牧ノ原やまばと学園で働くひとりひとりを祝福してくださり、ご利用者との交わりを通して多くの気づきや喜びを与えられ、いのちを支える感動や充実感を味わい続けることができますよう願っています。理想通りにいかない私たちのために、どうかご加禱ください。

(四)

昨年末から今年にかけて、二つの施設で入居者が次々に亡くなる出来事がありました。養護老人ホーム「相寿園」(定員五〇名)と、グループホーム「わかば」(定員一〇名)がそれで、それぞれ三名、計六名の方が病气や老衰により他界されました。

「相寿園」を訪れる機会が少なかった私は、逝去者の名前と顔とを識別できませんが、「わかば」の人たちは、建物が本部のすぐ近くにあり、毎朝、本部の玄関で通所先の車が迎えにくる

のを待っていたので顔なじみであり、次々に届く逝去の知らせに衝撃を受けました。

十五年前に開設された「わかば」は、男性ばかりの小さなホームで、十人の入居者のうち、一人は身体障害施設へすでに転出、その後、三名の仲間が、次々に召されたわけで、新しい入居者を迎えたとはいえず、別れは悲しいに違いありません。

先日、たまたま、わかばの男性たちがいつものように送迎車を待っているのを見かけました。かつては、その場所に六、七名はいたのに、今は三人です。

亡くなったAさんと仲良しでいつも隣り合わせで車を待っていたBさんは、その日、ぼつんと一人で座っていました。私が「Aさんがいなくなつて寂しいね」と声をかけると、無口なBさんが珍しくぶつぶつとつぶやきます。彼は話すことができませんが、「さびしい」と訴えているようでした。他の二人の男性、CさんとDさんも黙ったまま反応がありません。どうすることもできず、「行つてらっしゃい!」と声をかけただけで、そ

のまま立ち去つたのでした。

わかばの仲間・Eさんは、「やまばと学園」に入所した頃は、ご両親がよく訪れ自宅にも頻繁に帰っていました。お母さんが亡くなり、お父さんも身体に障害を負ったため、帰宅の回数も年々少なくなりました。今ではホームの仲間と一緒に元気に過ごしていますが、仲間のFさんが亡くなったとき、こう言つたそうです。「星になつたね。お母さんも星だよ」と。

いつか、誰もが星になる日を迎えますが、私とその日を迎えるとき、ICT化が進展した病院と施設、市役所の間には、「ナガサワミチコ、〇月△日、××時××分、シンパティイシ」といった無機質な電子データが流れるのでしょうか? そのような終わり方よりも、「どうとう星になつたね」、「いろいろな借りをいつか返すと言つたけど、結局、何も返さないまま逝ってしまった」などと、顔なじみの人たちが懐かしんでくれたほうがうれいなあと思うことです。

〈理事長〉長沢道子

聖ルカホームで働いて セプティアニンティアス

初めまして、わたしはセプティ、EPAの介護福祉士候補者として聖ルカホームで勤めています。

あつという間に今年一月に介護福祉士国家試験を受けました。3年半ぐらい勉強しながら働いて、大変ですが、本部や聖ルカホームの方々が応援してくださって、心強いです。疲れた時に勉強のやる気がなかったですが、試験に合格したいから、一生懸命やる気を出して、頑張りました。そろそろ三月に試験の合格発表なんです、合格しますように祈っています。

3年半ぐらい働いて、様々なことを学びました。日本語だけではなく介護の知識や技術や日本での生活などです。

新人の時、こんなことがありました。利用者様から「今日いくんち？」、「いくん」と質問されて、意味が分かりません。「どういう意味ですか。全然分かりません」と同僚に聞いて説明していただいて「今日何日？何時？」という意味でした。やはり日本語は難しいですが面白いと思います。日本語を勉強すれば勉強するほど、好きになります。

介護のことですが、移乗介助、移動介助、入浴介助、食事介助など様々な

な介助を勉強しています。ほとんど新しい知識でした。私の国では一人の利用者様の移乗介助時にだいたい二人や三人で介助しますが、日本ではほとんど一人で介助して、最初はびっくりしました。何という功利的な方法を考えていますねと思っています。

それだけではなく認知症の対応のこともたくさん勉強しました。認知症の対応が難しいです。ご飯をもうたべましたのに、まだ食べていないよや食べ物は無いものを食べてしまったりして、どうしたらいいですかと悩んでいましたが、研修や実際の仕事で習っていますので、少しずつ対応ができるようになりました。これからも介護のことや日本語を勉強していきたいと思っています。

一番楽しいな事は近くにある河津桜が咲く事です。毎年毎年待っています。ピンク色とても綺麗です。結局富士山に登った事ないですが、多分次の機会かなと思っています。

(EPA生)



希望寮新年会

人間すごろく

希望寮 小泉 和美

一月二十七日、やまばと希望寮で新年会が行われました。毎年一月に行われているもので、今年の企画は「すごろく大会」です。ホールの床に白いガムテープを貼りすごろくのマス

を張り巡らせ、すごろくの盤面が出来上がりました。A・B・Cケースのご利用者から一人ずつ代表者が選出され、ケースでの対抗戦です。サイコロを振って出た目の数だけ代表者がマスの上を歩きます。指示が書かれた紙が置かれたマスもあり、「一回休み」のマスや「二マス戻る」のマス、中には「スタートに戻る」マスもありました。サイコロを振るのはもちろんご利用者の皆様。職員さん手作りの巨大サイコロを両手に抱えうまく床に転がす方もいらつ



しゃれば、机の上に置く方が持ったままなかなか離さない方もいらつしゃいました。
「一回休み」



や「スタートに戻る」マスに止まり追い越し追い越されながらもそれぞれ進んでいきます。Bケースが順調に

進み、ついにゴールか、といったところでゴール直前に配置されていた「スタートに戻る」マスに止まってしままさかの最下位に。その間にCケースが追い上げ1位になりました。ここで終了の時間となり1位Cケース、2位Aケース、3位Bケースとなりました。1位だったCケースのご利用者から順番に景品のお菓子が配られました。我先にと受け取りに行く方やゆっくり吟味して選ぶ方もいました。

すぐに終わってしまつて退屈かもしれないと危惧されていたすごろく大会でしたが予想に反して意外な盛り上がりを見せ、ご利用者も職員も楽しめた企画でした。
(生活支援員)



聖ルカ「花物語」

鈴木ひろみ

一九八一年五月に聖ルカホームが三栗の地に開所して四十三年経ちます。斬新でモダンな木造の造りに感激したことでした。措置制度の時代で、遠方の市町村から入所される方は家族と離れ淋しかったでしょうが玄關の花々が淋しさを和らげたと思います。

勝間田小の母親の方々「花の会」の皆さんが、四季折々の花畑を作ってくれ、入所者様、職員、来訪者様を喜ばせてくれました。

土手に咲く桜並木のピンクと菜の花の黄色のコントラストは映えスポットで、夜は夜桜が楽しめるようにスポットライトを付け、入所者様と見に行きました。

紫陽花は礼拝堂の横で、大輪を咲かせていました。中庭は車いすでも散策できるようにプロムナードになっていて、入所者様と花の歌を歌って歩きました。アセビ、



レンギョウ、雪柳、アマリリス、つじ、もくれん、サルスベリ、小判草。茶畑の裏にはわらび、たけのこが生え

ていて、くちなしの香りも楽しめました。

入所者様のご家族が裏の梅の木の下に「セイルカ」と字が浮き出るように白い花ニラを植えてくれました。目白や鶯、キジ等の野鳥が梅の花を飛び交い、さえずっていました。

梅の花の後は梅の実を収穫し、梅干しを漬けました。梅干しの歌を覚えてくれた入所者様もいます。

百花繚乱のお花と自然豊かな環境によって、心癒されるホームでした。二〇一四年、老朽化や土地液状化の問題もあって、三栗から当地坂部に移ってきました。

新しい聖ルカホームの入りに散歩を楽しめて涼がとれるように木の周りにベンチが設置されています。入り口から玄關までの道は桜とつじ、もくれんが咲きます。この十年の間、前施設長や現施設長のご家族、ご利用者のご家族、坂部地域の皆様、職員のお花好きの人々が手入れしてくださり、土もなじんで来ています。

新施設のユニットのベランダには、パンジー、チューリップ、鶴小桜等が咲き、利用者様の目を楽しませてくれます。これから根付いていく木々や花たちと共に聖ルカ「花物語」後編が豊かに展開することでしょう。

(ぶどうの木施設長)

リナさん、ニンディさん来寮

垂穂寮 森田 奈津子

十二月十九日から垂穂寮で勤務をしている、EPA生おふたりを紹介いたします。

インドネシア メダンから昨年六月に来日し、大阪で日本語を学び、現在の会話はできます。地元のインドネシアで同じ大学で看護を学び、現在は三年目に介護福祉士を取得するために日本語と介護について勉強中です。

受け入れる私たちにとって、言葉や風土の違いが壁になるものとは不安がありました。日々の業務にはすんなりと溶け込み、ご利用者に明るく丁寧に対応してくださっています。

リナさん「誕生会や新年会の行事は楽しいよ。午前の1時間は大ホールでご利用者と関わるのが楽



しい。職員さんはみんな優しく教えてくれるから大丈夫、困ってないよ。休みに歯医者に通っているけど、慣れて問題ない」誕生会ではインドネシア語で誕生日を祝って歌ってくれました。ニンディさん「ご利用者さんと散歩に行くのが好き」と笑顔で話されました。

現場のスタッフからは「EPA生は教えればすぐにできるようになるね。ご利用者の名前もすぐに覚えようでの記録、排泄表、検温表の記録もできる。食事や移動支援も積極的に覚えようとしていてとても助かっている」「食事中にお箸を投げるご利用者さんも、ニンディさんの介助だと投げないよ」と、明るく優しい彼女達は、すでに垂穂寮での戦力になっています。

リナさん、ニンディさんは七月に日本語N3の試験に合格することが当面の目標です。

三年後、垂穂寮での仕事を続けたい、と思われるような風通しのない明るい施設作りに努めていきます。

(副施設長)

歩みのあと

(1月1日〜2月28日)

●全体的なこと

15全体事務連絡会、予算研修及び施設管理委員会、16相談員情報交換会、19小山圭子先生特定社会保険労務士による労務研修、28長崎一朗先生の主任等研究等ヒアリング。

●個別のコース

1法人1/6理事長、牧之原市新春顔合わせ会出席。1/8コスモス改修指名委員会。1/23コスモス改修工事入札。大河原建設様様が四、〇八〇万円(税抜)で落札。2/17理事長、牧之原市障害者自立支援ネットワーク全体会出席。2/20理事長、志太様原地域自立支援推進会議全体会出席。2/21理事長、吉田町障害者児福祉推進委員会出席。2/22理事長、21世紀日本キリスト教社会福祉実践会議大会にリモート参加。

●垂穂寮

1/12年末からまん延していたインフルエンザ終息。ご利用者36名と職員16名罹患。1/19新年会。ご利用者と職員のお抱負を絵馬に記す。昼食はお寿司を食べ、職員による催し物や「ベストテン」と題したカラオケで盛り上がりがあった。

●野ばら

2/3節分。福の神、赤鬼、青鬼に扮した職員たちと染症研修。施設内で予防着を着用し嘔吐物処理の手順確認。みぎわ2/22GH世話人就職説明会に出席。

●やまばと希望寮

1/9、20、27/6聖隷クリストファー篠原先生を講師にアセスメント研修。AI活用のアセスメントを学ぶ。27新年会。すころくで盛り上がりがる。2/6節分の会。赤鬼が暴れまわるも豆で撃退。2/25静岡岡福福祉指導課運営

指導。指摘事項はなし。生活支援センター)毎水曜の職員会議では情報の共有やケース検討をし、業務の質を向上。わかば)1/12吉田港海岸清掃。1/19クレージュ作り。2/9トリヲチヨ作りを楽しむ。もくれん)1/12吉田港海岸清掃。

●花もも

1/24成人を祝う会。ご家族を招いてお祝い。2/28お楽しみ給食。吉野家の牛井とお茶トレイのおやつを堪能。かたくりの花)1/10新年会。一年の目標発表。2/27おもちゃ美術館へ個別外出。木の玩具の感触を楽しむ。2/28防災センターへ行ったグループは暴風雨を体験。ランチは喫茶「ほとり」で満喫。

●マーガレット

1/21節分。おまを全員で作成。1/30大代ジャンボ干支で記念撮影。2/3節分。ゲームやおやつを食べ楽しむ。

●カサランカ

1/6仕事始め。1/7利用者H.Dさん島田市企業に就職。2/10利用者T.Nさん藤枝市企業に就職。2/17、21しごと体験「輝きウィークII」に利用者11名が参加。それぞれ希望する企業でしごと体験し貴重な経験。

●コスモス

1/17島田第二地区民児協との交流会。島田市出前講座「感染予防について」を聴講。2/7コスモ建物改修工事について保護者説明会。2/14ボランティア。女性ご利用者から男性ご利用者へチョコをプレゼント。

●別のはな

1/31退所利用者お別れ会。2/18磐田市新造形創造館へグループ外出。レジン体験(アクリルカラーづくり)。2/20圏域「輝きウィーク」に参加し、T.O.A株式会社静岡工場見学。

●希望の家

1/17交通安全教室。1/25金谷公民館まつり出店。2/14菌磨き指導&ハレ

ンタインに「限定つごこ」プレゼント。2/17「輝きウィーク」1名参加。

●ふれあい

1/10新年会。今年抱負を発表し初詣へ。2/14ボランティア「限定つごこ」プレゼント。2/18、19「輝きウィーク」2名参加。2/13新年の祝い。あさがお)1/21新年の祝い。絵馬に願いや目標を書き、1/14体操教室。地域の方1名参加。2/4笑いヨガ。2/24ひな祭り。ひな人形等の飾りを作る。WOCやまばと)1/4新年をぜんざい汁粉で祝い。1/10藤枝鮑波神社で祈願。2/27、28防災訓練。引渡しに備え携帯で連絡訓練。ご家族と共に「防災の意識付け」に役立った。

●さくら

1/31新年会。今年の決意表明。「ピンチをがんばりたい」「毎日さくらに通いませば」「風邪を引かないように気を付けます」など。2/12ご利用者Hさんの葬儀へ参列。

●レタスクラブ

1/22ランチづくり。1/おでん。前日から仕込んだ大根や練り物を煮込む。味がしみて美味しく、お代わりの声がかげぶ。2/20じゃがいもの植え付け。

●聖ルカホーム

1/31聖ルカ・聖ルカショートさくらん運営指導。大きな指摘なし。

●グレイス

1/16りんどうユニットで獅子舞訪問。お汁粉を頂く。つばきユニットで福笑い。あさがおユニットで新年会。楽笑会は職員感染症拡大で中止。1/14坂部地区サロンの丘より、ボランティアにちなんだゲームで体操と笑いを提供。

●相寿園

1/17年始からのインフルエンザ感染状況が終了。2/10掛川花鳥園と小園神社へ。(発電機交換で終日停電になったため)全員で外出。久々の外出に次も企画してほしいとの要望あり。

●真菜

1/4、7新年会。甘酒で乾杯。1/10聖ルカ前の出

張鯛焼き屋へ歩いて行く。1/16ひまわり号に本を借りに行く。1/15豚汁おご利用者Mさんが良く作ってくださったと作る。1/20石雲院へ初詣。1/23「あつた歌会」様新春歌謡ショー。2/1、4節分レク。2/14三食井と節分汁。ボランティアでお豆腐のチョムリスを愛情と感謝を込めて手作り。すずらん)1/14肉じゃがメインの手作り昼食。ほくほく、ジャガイモが美味。1/24新年会。おみくじを引いて、健康祈願。職員によるお絵描きジュエスチャイゲーム。絵のセンスで大笑い。2/3節分&おやつバイキング。赤鬼青鬼めがけて、手加減なく鬼に当てる厄払い。2/4シチューと梅昆布の炊き込みご飯を手作り。昔を思い出し出し調理。

●さくらん

1/31聖ルカ・聖ルカショートさくらん運営指導。特に指摘等はなし。職員確保が課題。

●シャローム

1/10デマンドタスクシール便性向上について牧之原市地域振興課より報告。2/7牧之原市重層の支援体制整備事業研修。2/14事例検討会。2/14高齢者低栄養に対する研修。2/14坂部ふれあいサロン参加。2/24牧之原市要配慮者避難確保事業報告会。2/25牧之原市在宅看取り情報共有研修会。

●オリブ

1/10、23オリブ管内35人の民生委員から「心配な家庭」等の毎年の重要な聴取り調査。必要に応じて訪問調査や支援をする。民生委員の活動を地域福祉が支えられていることを痛感。困窮した独居高齢者の深刻な状況も浮かび上がる。2/5感染症発生時における業務継続計画(BCC)机上訓練実施。

●ぶどうの木

1/6、28婦警さん講話。1/7半日デイサービスは午前中のみに集約。2/4半日デイサービスは終了し、牧

寄付金状況報告

		(単位:円)	
	寄付金	指定寄付金	合計
4月~			
1月	8,232,580	0	8,232,580
2月	328,000	0	328,000
計	8,560,580	0	8,560,580

※2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金収入として、計上しています。

★活動者名(個人は姓名のみ) 個人 大石節子、大塚はるみ、小島茂美、大場敏司、鈴木勝利、殿村隆夫、内藤きせ、三浦孝、柳本明日香、吉永治子。 団体 あつた歌会(歌の披露、ちいさな親切運動(敷地内清掃)。 実習生受け入れ状況 (やまばと希望寮) 千葉明德短期大学 2名

あとがき ☆表紙の写真はワークセンターやまばとの「利用者」パン販売の日は、楽しいです!パンを買うとき、みんな笑顔になります」と三三三お話しされました。 ☆田平智子さんは、生活支援センター相談員ですが、法人の地域交流事業を担当し、喫茶店で料理をつくっています。 ☆いろいろな制度が変わる新年度ですが、当法人の変わらぬ理念「ともに生きる」を新人オリエンテーションでも伝えていきます。

(一)